

外国旅行に当つての 所感少々

元校長 青山健吉

開高を最後に現役を退いてから早くも満八年近くになりますが、お蔭様で先づは健康に思ふれ且つ別に退屈する事もなく今日に至つています。退屈しない理由は、引退後も縁あって週に三日間講師勤務に出かける事になった為に益々以て勉強を怠るわけには行かぬ点と、庭や畑に余り草を生やさぬように最低の管理はしなければならぬ、と言ふ二項目になるかと思はれます。



メキシコのチチェンイツァ遺跡にて
マヤ族の婦人達と並ぶ

勉強と申しましたが、その勉強たるや実は英語講読の方でして、元來歴史の教員である私はチトお門違いなわけですが、お門違いの方面が却つて本職みたいな結果となる例も時にはある様です。私の場合、曾ては少々情ない気がした事もありましたが、今ではそれも一つの行き方だろうと達観してあります。ではありますが、育つたのが歴史畑、と言う素性は争えず、時折出かける旅行は国の内外を問はず歴史に関係がある方面に足が向いてしまひます。外国旅行の場合は過去六回、何れも団体に加はつての事でしたが見学は思うに任せぬ事が多くはありましたが、それでも自由行動時間には努めて歴史関係の場所を物色しました。ロンドン塔内の歴史博物館、パリのコンシエールユリ(大革命時代の死刑囚監獄)、ストックホルムの歴史博

物館(三十年戦争当時の遺物が主体)、マラガのヒラルフアロ城(サラセン関係)、等へ道を探しつゝ、個人でノコノコ出かけた事は好い思い出になりました。又、団体見学ではありましたがロンドンのウェストミンスター寺院、ウィンザー城、パリのノートルダム寺院、

アステカ族及びマヤ族の遺跡等は最も印象に残るもので、これが現役当時なら一々歴史の授業にも役立ち得るのだが、残念に思ひます。現在は英語教師と言う事にはなつていますが話す方は至つて怪しげなものです。日本語の場合でさえ口が重いのだから、ましてや外国語に於ては尚更の事。でも言葉はわかなくてはならない。知つてゐるの

亦迷いました。学生時代に必要であつた。東京外国語学校スペイン語科の夜学へ半年通つたお蔭で、今では大方忘れたもの、それでも「〇〇ホテルはどちらの方角へ行けば宜しいのであるか」程度の事は言へました。然しこれに依つて相手へ、あそこをこちらへ曲つて、それから何番目の辻をこちらへ……と答えられれば半分はわからない。それでわかつた様なわからない様な顔をして礼を言つて、「一寸待て、その車に乗れ」と路上に駐車中の車を指すので言われるままにすると、彼は早速それを運転して「それ、こゝが何番街だ。ほれ、こゝをこちらへ曲るのだ。とこゝでお前は何人だ。」てな事を言ひながら問もなくホテルの前へ出ました。そして折角の厚意、お礼をしなれば、と財布を取り出したら、そんな心配は無用とばかり手を横に振つて去つて行つた。其他にも道に迷つた事は一再ならずありましたが其の都度怪しげな西洋語と身振手真似で何とか切抜けて来ました。但しこれは治安の好い所だけに限るので、さもないればそんな度胸は持てません。驚いた事にロサンゼルスでは夜間の一人歩きは物騒、との警告を受け、神妙にしていた次第でした。外国へ出て見ると日本の良さがわかる、とはよく聞く言葉ですが、それは長期間あちらに滞在した場合の事であつて、私の様に十日や二十日の旅行者に感ぜられるのはむしろ日本の欠点の方なんです。その一々を細かく述べると長くなりすぎますから簡単に項目だ



雑感

同窓会副会長 恒川悦郎

五月十二日、昭和五十四年度開高同窓会幹事会を開催する。幹事会は、例年五月の第三土曜日から午後の予定である。幹事会の顔ぶれは毎年殆んど同じであり、幹事諸君の出席は頗る低調である。幹事会開催の連絡の不手際なのかもしれない。この件が成就した事は誠にありがたう。さて、充分認識出来る筈である。こんな中であつて、老令をも顧みず、遠路はるばるお越し賜り、終日真摯な態度で討議いたした東京支部の染谷みね、名古屋支部の成瀬たつ子、(いづれも高女五回卒業生)の両先輩に對して、心から敬意と感謝の辞を送りたい。切て、本会の

を大切にしない国である。日本程横文字語を使ひたがる国はない。フランスの様な言語に於ける漢字主義者になるのも考えものだが、どこかの植民地にでもなつたか様な日本は更に始末が悪い。

菊地憲三先生(旧職員) 去る一月十七日急逝されました。御冥福をお祈りします。

馬籠妻籠の旅

高女十一回卒 H・I生

昨春、多治見で、クラス会を催した折、二三の有志が、秋には、馬籠へ泊旅行しようとして話合つてゐたが、希望者がふえ、総勢九人、十一月六日、七日と楽しい旅が出来た。出発の前に、恵那峡の秋色がすばらしいと聞いていたし、車を仕立てる都合もあり、中津川で下車し、先づ源清公園へ行く。

奇岩怪石の絶壁は、木曾の清流と、朱色の源清橋と相俟つて、一大景観を呈していた。馬籠へ着いたのは、それから一時間後。三台の車に分乗したが、どの運転手さんも、観光地の歴史に詳しく、細かい説明があつて、よかつた。先づ、薬師寺に参し、車を

「これより北、木曾路」の碑の前で(島崎藤村の筆になる)中村先生を囲んで写す

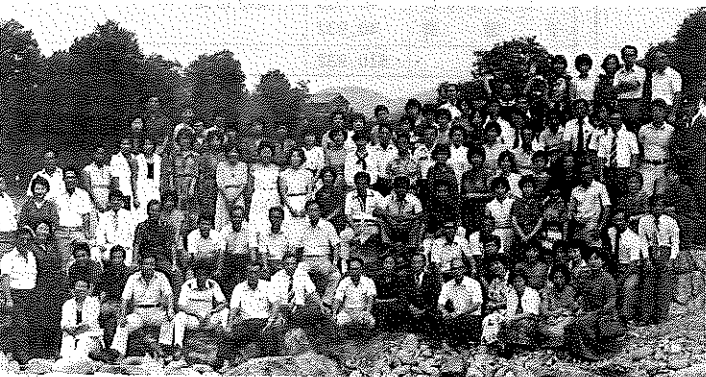


「これより北、木曾路」の碑の前で(島崎藤村の筆になる)中村先生を囲んで写す

それにしても、石碑の字は、今仕上つた様に明瞭である。石の生命は長いものと、つくづく思はれた。馬籠本陣では、第一に記念館を見る。一世の詩聖、島崎藤村先生の遺筆が山積されてゐる。木曾路は凡て山の中である。からには「夜明け前」の原稿や、藤村作詩の明治学院校歌の原稿など一瞥するだけでも大へんな時間を要する。理想主義の父正樹が、理想の実現に一生を捧げて、其凡てに破れ、狂死したと伝へられる座敷を覗いたり、春樹(藤村)少年が、其父から四書五経を学んだと言はれる部屋、当時の民具の展示してある物置などを見て廻つた。それから永昌寺へ参り、藤村家の墓参をすまし、民宿にはいり、山菜料理の夕食はおいしく、殊にすいきの漬物は、思ひ出の味となつた。民宿のすいきの味の味、殊によしこゝろ同じく

母をし徳ぶ(Yさん即詠) 二日目(七日)も朝からハイヤーが来て呉れ、妻籠へ向う。途中木地屋へ立ち寄り、思い／＼の買物をしたのもたのしかった。妻籠は木曾十一宿の一つで、全国始めての集落保存となり、街路に電信柱も建てさせない。昔ながらの狭い道の両側に板の雨どい、格子戸、あまり大きくない土蔵、凡て素材で昔の面影を止めている。勝手に改築する事も許されないの、郵便局なども普通の木造家屋の方でしたが、話題は安松山

花も終る頃でしたが、若葉の美しい目黒の雅緻園で十名の方が集まりました。佐藤先生(神代先生)の呼びかけもありましたので、十三回までの方の集りでした。初めてお目にかかる方、久々うぞ御一報下さいませ。東京大田区田園調布 染谷みね



小瀬の河原にて 記念撮影

支部だより

東京のつどい

高女十三回生

で、赤いポストも無く、昔ながらの「書状集箱」とあるのも面白い。昔、脇本陣であつた奥谷家は細い格子戸で、隠閣(三階)のある建築だけに立も高く建てられ、玄関を這入ると、大いなる座敷の間があつて、家長の座、妻の座、嫁の座など封建時代の女性の生活を想像し、感無量のものがあつた。藤村初恋の人、おゆう様の嫁がれた奥谷家だけあつて、

末筆になつて、御無礼です。が、今回の旅行は恩師中村保先生が家庭の御都合で、目下、中津川の飯屋に居られ、二日間共行動を共にしていただけたし、いろいろ御教示を賜つた事を感謝して筆をおきます。加茂は、日本ライン下り。で有名な観光地であり、交通の要所でもあります。美濃加茂支役所勤務職員十五人を中心に二回夏と忘年会又は新年会を兼ねて、親睦を計るため集会をやつて居ります。男子二十人、女子十人、約三十人です。会費は一ヶ月五百円、幹事が半年分まとめて徴収します。会場は主に市の一、料理は福美で行い会員は必ず出席します。ママさんも、常連の開高会のこととして、料理も超大サービス、その上に、前回はあの料理だ

活動の近況

加茂支部

卒業二〇年目の同窓会

十一回生

去る八月十九日(日)に、第11回卒業生の同窓会が卒業20周年と銘うって行われました。関市小瀬の「かがり火荘」に、東京、山梨、大阪など遠来の友を含めて107名が集まり、安田富士子、加藤啓郎の三先生を囲んで大いに快談快食と快談快笑がしました。最後に福井寛悦氏を幹事長に選び、五年毎にこの会を開くことを決めて散会しました。